

平成 22 年 4 月 1 日
新日鐵化学株式会社

代表取締役社長 二村文友
入社式あいさつ（要旨）

皆さん入社おめでとうございます。

はじめに、皆さんは大変良い時期に、この新日鐵化学へ入ってこられたということを申し上げたい。

わが社は昨年四月に、兵頭前社長のもとで、この会社は変わって行かなくてはならない、10年後にはこうした会社になりたいというターゲットとして、グランドデザインを策定し2020年の目標として掲げました。さらに、その目標を達成するために、具体的に何をどう進めて行くのか、およそ半年間かけて、全社で議論を重ね、各事業部、製造所、コーポレート部門ともにロードマップを作成しました。そして、今年はその計画を実行する初年度であり、皆さんはそのタイミングで入社していただいたということでもあります。

いまからこの会社はどんどん変わって行きます。どのような会社を目指すのか、ひと言で申しますと、汎用品から、高付加価値な機能材料へとシフトしていく会社に生まれ変わるといことです。さらに成長を目ざし、アジアを中心にグローバルな展開をして、業容を拡げていこうという、この二つが、最も大きな目標であります。逆に、これを成し遂げなければ、10年後のわが社は果たしてどうなっているか・・・。何としても、この激しい変化の時代をともに乗り越えて行っていただきたいということでもあります。

さて、今から皆さんには、およそ一年間をかけた、新入社員研修のプログラムが待ち受けていますが、この大事な一年間と、入社二、三年の心構えとして一言申し上げます。

まずは、新聞を読んでいただきたいということです。世の中で何が起きているのかということに、興味を持っていただき、政治、経済はもちろん、我々の化学業界以外でも、いま一体何が起きているのか、しっかりと目を向けて情報を吸収して欲しい。海外から原料を輸入する我々にとって、その輸入元で何が起きているか、地球の裏側で起きている変化が、明日からの自分たちの事業に、どのような影響があるのかを常に考える。職場にどんな変化が起きるのか、その中で、自分は今何をしなければならないのか・・・。あるいは、変化の中でチャンスを掴み、大きく成長できることもあります。そういった世界の変化に、敏感に反応していただきたいということでもあります。

二点目は、自らがむしやりに研鑽して欲しいということです。

宮本武蔵の「五輪書」水の巻、ここでは自らの剣術の流儀を説いているのですが、その最後に、“千日の稽古を鍛とし、万日の稽古を練とす”とあります。千日は三年、万日ではおよそ三十年です。それほど鍛錬して鍛錬して、ようやく達人になれるということでもあります。

皆さんも最初の三年間は、どこの職場に配属されても、そこでしっかりと役に立つように、がむしやりに、無我夢中で己の技術を磨いていただきたい。

三点目は、人の出会いを大事にして欲しいということでもあります。私たち製造業では、お客様へ商品をお届けするまでに、研究や製造、あるいは営業など、多くの人たちの力が必要であり、一人では何もできません。チームワークによるのです。

そこで大切なことが人との出会いなのであります。

私自身、同僚、上司、あるいは他の部門でも、目標としたい多くの人物にめぐり会うことができました。お客様にも素晴らしい方がいました。素晴らしい大学の教授とも出会いました。あの時、あの人に出会えたからこそ、今の自分があるという実感があるのです。皆さんにもこれからの人生の中で、人との出会いを何よりも大切にしていきたいのです。

最後になりましたが、皆さんはいずれ新入社員の時期を終え、中堅となり、立派な管理職へと育っていくわけですが、その中で常に企業理念を原点としながら歩んでいって欲しい。そうすれば、この企業理念を実践することが私たちの人生だということまで、必ずや辿り着けるはずです。人の役に立つ商品を作り出して社会に貢献していく。それを通じて社員としての生きがいを感じていくんだという幸せを、ぜひ味わっていただきたい。

以上、歓迎と激励のあいさつといたします。